TADANO

決算説明資料

2013年04月

株式会社タダノ

※予測に関する注意事項

・本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて作成しておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。

Lifting your dreams

Lifting your dreams

TADANO

会社概要

【会社名】　株式会社タダノ（1948年8月24日設立）創業者 多田野 益雄
1955年国内初の油圧式トラッククレーンを開発

【代表者】　代表取締役社長（CEO）多田野　宏一

【本社】　香川県高松市新田町甲34番地

【主な事業】　建設用ｸﾚｰﾝ、車両搭載型ｸﾚｰﾝ、高所作業車の製造販売

【事業所】　東京事務所（墨田区）、高松工場（高松市）、志度工場（さぬき市）、多度津工場（多度津町）、千葉工場（千葉市）

【拠点】　（日本）10支店、23営業所（海外）北京事務所、中東事務所（UAE･ﾄﾞﾊﾞｲ）

【資本金】　13,021百万円　　【株式】発行済　129百万株　　株主数　8,204人（13年3月末）

【売上高】　134,836百万円（12年度）

【従業員数】　連結 3,144人、単独 1,328人（13年3月末）

【関係会社】　（日本）会社 11社、関連会社 1社

㈱タダノアイメス
㈱タダノアイレック、㈱タダノエステック
㈱タダノエンジニアリング
㈱タダノテクノ東日本、㈱タダノテクノ西日本
コンコルド・リース・アンド・ファイナンス㈱
㈱タダノ教習センター
㈱タダノ物流
㈱タダノシステムズ
タダノ産業㈱

日通重機サービス㈱

（海外）子会社 15社、関連会社 2社

タダノ・ファウンGmbH、タダノ・ファウン・シュタールバウGmbH［独］
タダノ・アメリカ・ホールディングスInc.　［米国］
タダノ・アメリカCorp. 、タダノ・マンティスCorp.　［米国］
タダノ・ブラジル・エキパメントス・デ・エレヴァサォンLtda.［ブラジル］
京城多田野（北京）液圧機器有限公司、金天利多田野（河北）金属加工有限公司［中国］
多田野（北京）科貿有限公司［中国］、 多田野華南有限公司［中国］
韓国多田野株式会社　［韓国］
タダノ・アジアPte.Ltd.　［シンガポール］、タダノ・タイランドCo.,Ltd.［タイ］、
タダノ・オセアニアPty.Ltd.［オーストラリア］
タダノ・インディアPvt.Ltd.　［インド］

北起多田野（北京）起重機有限公司　［中国］
台湾多田野股份有限公司　［台湾］

12年度決算のポイント

（単位：百万円）

	11年度		12年度		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	114,209	100.0%	134,836	100.0%	＋18.1%
営業利益	5,895	5.2%	10,925	8.1%	＋85.3%
経常利益	5,778	5.1%	11,448	8.5%	＋98.1%
当期純利益	3,145	2.8%	7,341	5.4%	＋133.4%

	11年度	12年度
設備投資額	1,584百万円	2,925百万円
減価償却費	2,353百万円	2,167百万円
為替レート(US$)	79.84円	79.82円
為替レート(EUR)	111.12円	102.63円

※設備投資額にはﾘｰｽ資産分を含んでおります。
※為替ﾚｰﾄは1-12月期中平均ﾚｰﾄ(海外子会社12月決算のため)

【12年度の経営方針】
①ｺｱﾊﾞﾘｭｰの追求「安全・品質・効率」
②収益力の強化
③中計（11-13）の７つの戦略への取組み

◆増収増益、2年連続の最終黒字
・国内での販売価格の適正化
・海外における拡販
・原価低減への取組み

◆国内、海外共に売上が増加
⇒国内売上高 613億円 → 686億円(+12.0%)
建設用ｸﾚｰﾝ、車両搭載型ｸﾚｰﾝ、
高所作業車が揃って増加
⇒海外売上高 528億円 → 661億円(+25.1%)
需要回復を背景に増加

◆海外売上高比率 46.3% → 49.1%

◆収益は倍増
経常利益　57億円 →114億円
当期純利益　31億円 → 73億円

損益計算書(対前期比較)

(単位:百万円)

	11年度		12年度		比較増減
	金額	比率	金額	比率	
売上高	114,209	100.0%	134,836	100.0%	20,626
売上原価	88,462	77.5%	101,364	75.2%	12,902
割賦販売利益	278	0.3%	160	0.1%	-118
売上総利益	26,025	22.8%	33,631	24.9%	7,606
販管費	20,129	17.6%	22,705	16.8%	2,576
営業利益	5,895	5.2%	10,925	8.1%	5,029
営業外損益	-117	-0.1%	523	0.4%	640
経常利益	5,778	5.1%	11,448	8.5%	5,670
特別損益	155	0.1%	-76	-0.1%	-231
税引前当期純利益	5,933	5.2%	11,372	8.4%	5,438
法人税等	2,745	2.4%	4,123	3.1%	1,377
少数株主利益	43	0.0%	-92	-0.1%	-135
当期純利益	3,145	2.8%	7,341	5.4%	4,196

【業績のポイント】

◆売上原価率　77.5% → 75.2%
- 販売価格の適正化、操業度改善やSVE活動による原価低減
- 原価率は前期比 2.3%改善

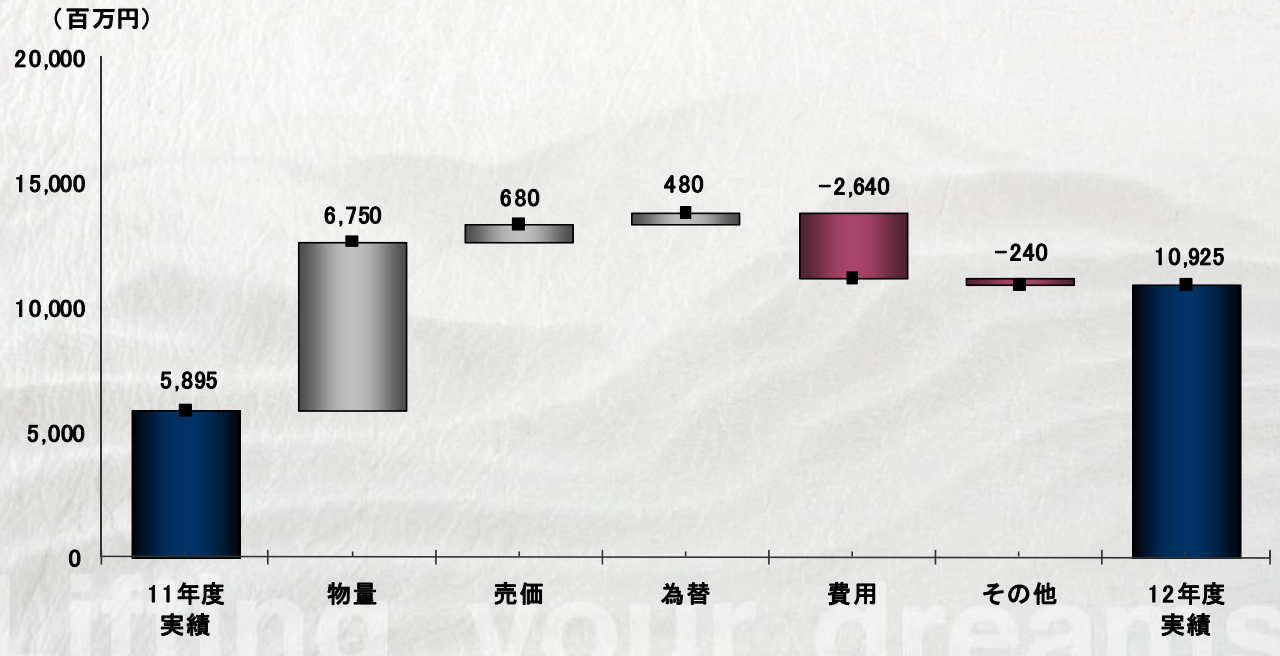
◆販管費　25億円増加
- 人件費増加　+1,123百万円
- 変動費増加　+727百万円
- その他諸経費増加　+725百万円

◆営業外損益
- 営業外収益　719百万円　→1,518百万円
  ※為替差益の増加により+893百万円
- 営業外費用　836百万円　→　995百万円

◆特別損益
- 特別利益　174百万円　→　164百万円
- 特別損失　18百万円　→　241百万円

損益計算書(営業利益の増減要因)

費用が増加したものの、売上増により利益が大幅に増加。販売価格の適正化、為替影響もあり、営業利益は50億円の増加。



貸借対照表（対前期末比較）

（単位：百万円）

	11年度末		12年度末		比較増減
	金額	比率	金額	比率	
手許資金	40,225	25.0%	39,582	22.3%	-643
売上債権	35,041	21.8%	40,820	23.0%	5,778
たな卸資産	34,205	21.2%	45,341	25.5%	11,135
その他	4,572	2.8%	6,400	3.6%	1,828
流動資産計	114,045	70.8%	132,144	74.4%	18,099
有形固定資産	33,449	20.8%	34,584	19.5%	1,135
無形固定資産	867	0.5%	776	0.4%	-91
投資その他の資産	12,813	7.9%	10,105	5.7%	-2,708
固定資産計	47,130	29.2%	45,466	25.6%	-1,664
資産合計	161,176	100.0%	177,611	100.0%	16,435

仕入債務	28,331	17.6%	31,094	17.5%	2,762
有利子負債	38,101	23.6%	38,706	21.8%	604
その他	16,224	10.1%	21,136	11.9%	4,912
負債計	82,657	51.3%	90,937	51.2%	8,279
純資産計	78,518	48.7%	86,674	48.8%	8,155
負債・純資産計	161,176	100.0%	177,611	100.0%	16,435

【増減のポイント】

◆売上債権は増加

350億円 → 408億円

⇒売上債権回転期間は改善

（11年度：112.0日→12年度：110.5日）

◆たな卸資産は増加

342億円 → 453億円

（453億円のうちTFG分123億円）

⇒たな卸資産回転期間は悪化

（11年度：109.3日→12年度：122.7日）

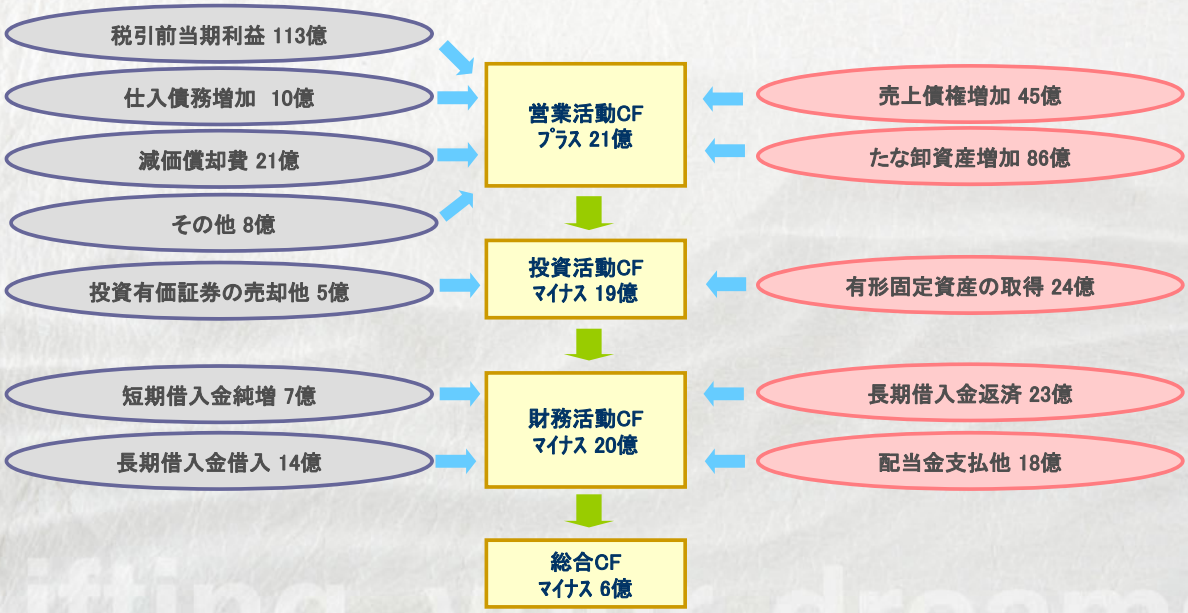
◆有利子負債は微増

381億円 → 387億円

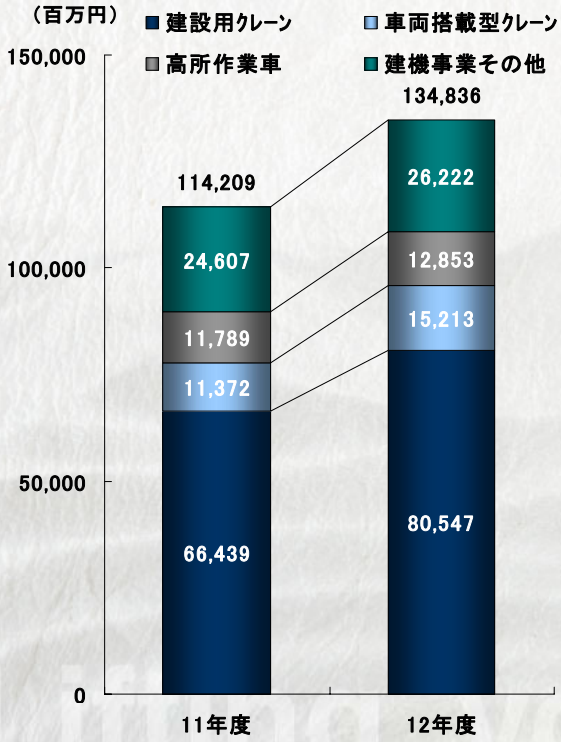
⇒短期 78.8億円増加、長期 72億円減少

キャッシュ・フローの概要

たな卸資産の増加や有形固定資産の取得に必要な資金を税引前当期利益で賄い、フリーキャッシュ・フローはプラス。



製品別売上高



（単位：百万円）

	11年度		12年度		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
建設用クレーン	66,439	58.2%	80,547	59.7%	14,107	21.2%
車両搭載型クレーン	11,372	10.0%	15,213	11.3%	3,840	33.8%
高所作業車	11,789	10.3%	12,853	9.5%	1,063	9.0%
その他	24,607	21.5%	26,222	19.5%	1,614	6.6%
合計	114,209	100%	134,836	100%	20,626	18.1%

◆海外売上高比率　46.3% → 49.1%

※建設用クレーン、国内及び海外の内訳

国内	24,146	26,640	2,493	10.3%
海外	42,293	53,907	11,613	27.5%

海外仕向地別売上高推移

海外売上は、ピーク時売上の半分以下となった10年度を底に反転、回復基調。
欧州+7.4%、北米+46.4%、中南米△26.9%、アジア+19.5%、中東+35.8%、
オセアニア他+30.3%。（前期比）

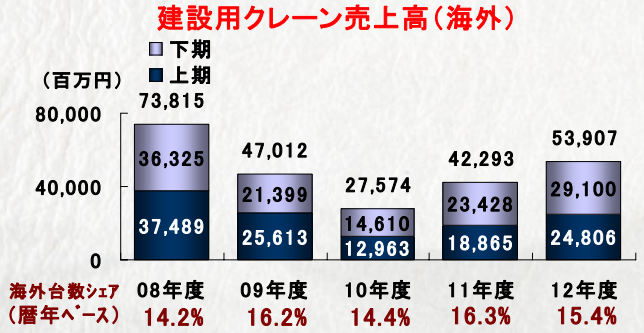


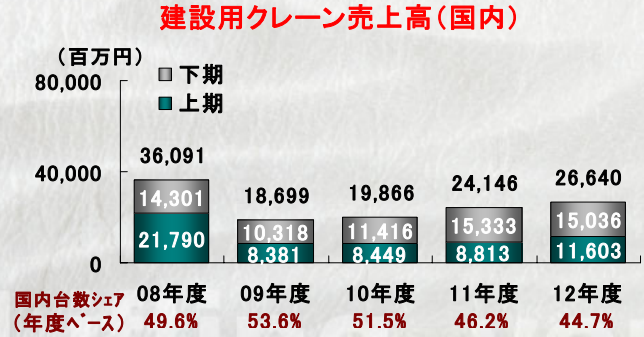
海外初の動態管理システム搭載
北米で受注好調なGR-1000XL
：11年3月発売

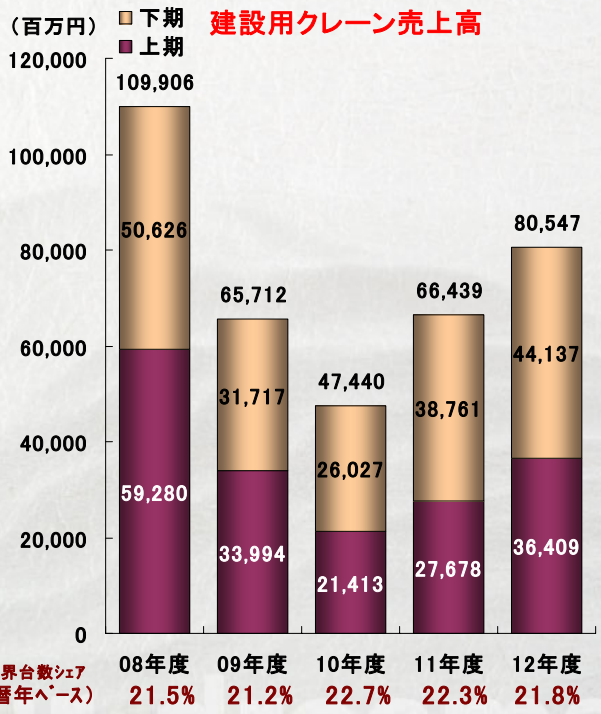
	00年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度
欧州	11,435	9,754	10,893	11,978	12,000	16,292	19,170	25,566	29,630	19,196	12,739	11,643	12,510
北米	2,671	2,739	2,755	3,402	4,547	9,798	12,324	18,342	20,145	15,301	6,616	13,938	20,406
中南米	948	586	287	457	866	1,721	2,420	2,542	2,722	887	1,691	3,012	2,201
アジア	4,225	4,368	5,362	5,185	4,888	4,749	7,861	12,069	10,954	9,680	6,603	9,190	10,982
中東	2,142	3,098	3,602	5,663	7,347	8,507	11,708	13,878	15,836	5,948	6,686	7,432	10,090
オセアニア他	956	1,524	2,066	3,696	4,634	5,790	7,409	9,158	10,063	5,177	3,939	7,654	9,970
合計	22,379	22,072	24,968	30,384	34,285	46,859	60,894	81,557	89,354	56,191	38,277	52,872	66,160
為替レート（US$）	107.83	121.54	125.35	115.99	108.24	110.21	116.38	117.84	103.46	93.57	87.81	79.84	79.82
為替レート（EUR）	99.63	108.80	118.41	131.03	134.47	136.92	146.14	161.24	152.44	130.20	116.39	111.12	102.63
海外売上比率	23.8%	25.0%	30.1%	31.4%	33.7%	38.8%	42.1%	46.8%	54.9%	53.9%	42.6%	46.3%	49.1%

※為替レートは期中平均レート（海外子会社12月決算のため、通期1-12月平均）
01年度以前はDMをEURに換算したものを表示しております。

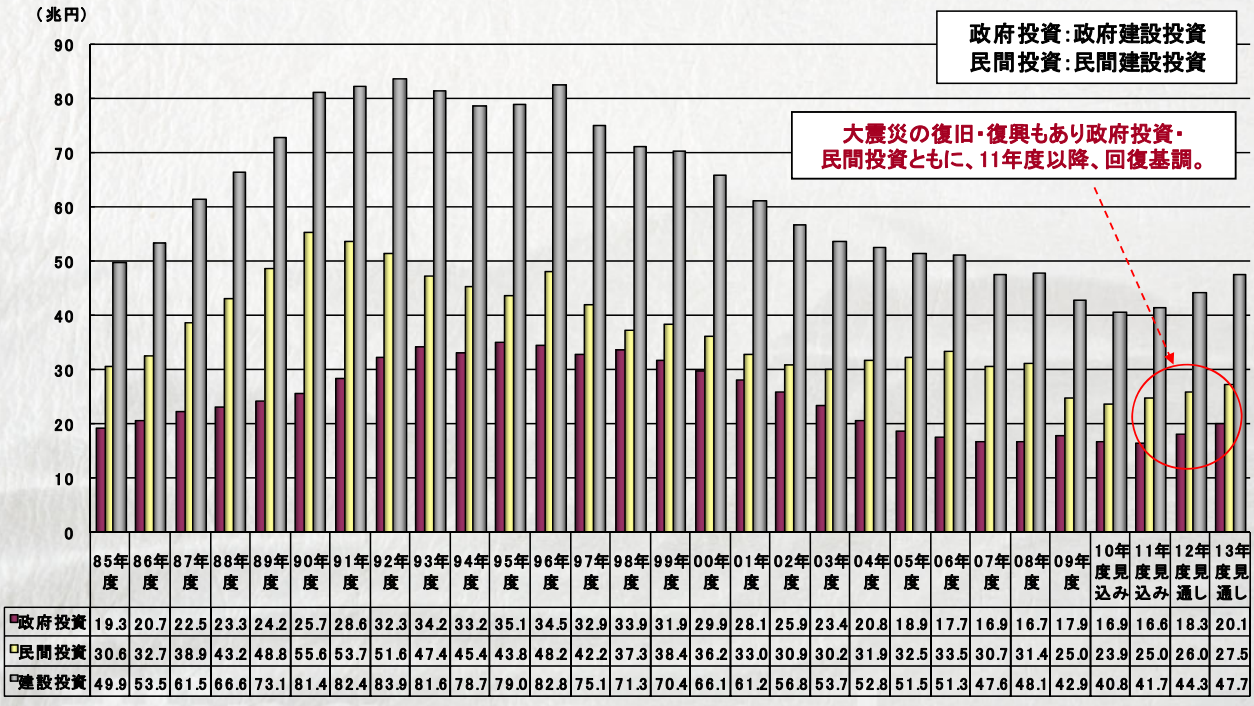
建設用クレーン







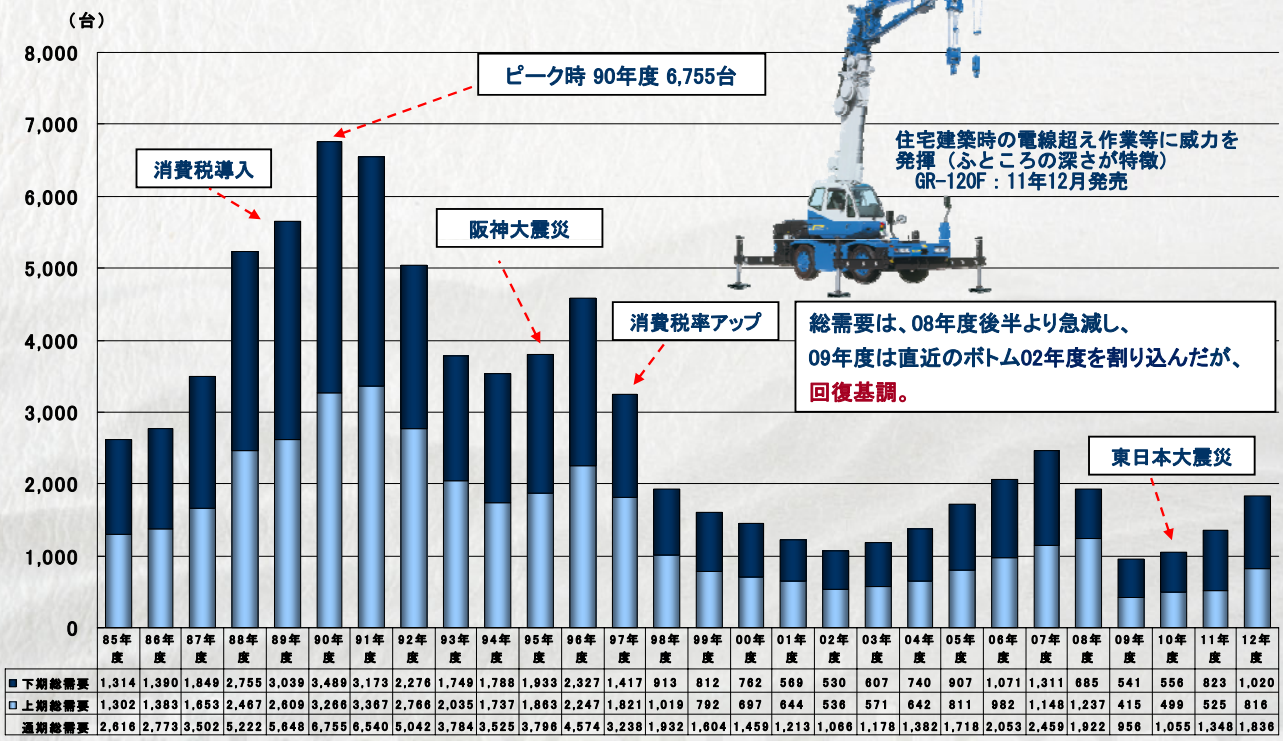
国内建設投資の推移と見通し



	85年度	86年度	87年度	88年度	89年度	90年度	91年度	92年度	93年度	94年度	95年度	96年度	97年度	98年度	99年度	00年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度見込み	11年度見込み	12年度見通し	13年度見通し
□政府投資	19.3	20.7	22.5	23.3	24.2	25.7	28.6	32.3	34.2	33.2	35.1	34.5	32.9	33.9	31.9	29.9	28.1	25.9	23.4	20.8	18.9	17.7	16.9	16.7	17.9	16.9	16.6	18.3	20.1
□民間投資	30.6	32.7	38.9	43.2	48.8	55.6	53.7	51.6	47.4	45.4	43.8	48.2	42.2	37.3	38.4	36.2	33.0	30.9	30.2	31.9	32.5	33.5	30.7	31.4	25.0	23.9	25.0	26.0	27.5
□建設投資	49.9	53.5	61.5	66.6	73.1	81.4	82.4	83.9	81.6	78.7	79.0	82.8	75.1	71.3	70.4	66.1	61.2	56.8	53.7	52.8	51.5	51.3	47.6	48.1	42.9	40.8	41.7	44.3	47.7

※ 数字はすべて名目建設投資。予測は、(財)建設経済研究所の「建設投資の見通し」(13年4月22日発表)による。

建設用クレーンの国内総需要の推移



	85年度	86年度	87年度	88年度	89年度	90年度	91年度	92年度	93年度	94年度	95年度	96年度	97年度	98年度	99年度	00年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度
■下期総需要	1,314	1,390	1,849	2,755	3,039	3,489	3,173	2,276	1,749	1,788	1,933	2,327	1,417	913	812	762	569	530	607	740	907	1,071	1,311	685	541	556	823	1,020
□上期総需要	1,302	1,383	1,653	2,467	2,609	3,266	3,367	2,766	2,035	1,737	1,863	2,247	1,821	1,019	792	697	644	536	571	642	811	982	1,148	1,237	415	499	525	816
通期総需要	2,616	2,773	3,502	5,222	5,648	6,755	6,540	5,042	3,784	3,525	3,796	4,574	3,238	1,932	1,604	1,459	1,213	1,066	1,178	1,382	1,718	2,053	2,459	1,922	956	1,055	1,348	1,836

03年度から10年間の平均年間総需要は約1,600台。

建設用クレーン

国内ｼｪｱ 46.2%→44.7%

油圧式建設用ｸﾚｰﾝ国内総需要 1,836台（12年度、当社調べ） 前期比36.2%増

⇒買い替えが進むなか、引続き販売価格の適正化に取り組み、
国内売上高は266億4千万円（前期比 110.3%）

【ラフテレーンクレーン 】

- 国内建設用ｸﾚｰﾝの中心機種
  国内総需要の94%（北米総需要の70%）
- 市街地の建築工事に欠かせない都市型ｸﾚｰﾝ
- ｺﾝﾊﾟｸﾄな車体で、狭小地でも性能発揮
  （前輪、後輪共にｽﾃｱﾘﾝｸﾞ可能）
- ｸﾚｰﾝの運転席と自動車の運転席が兼用
- 国内向け12～60t吊り 5機種
  （排ｶﾞｽ対応、動態管理ｼｽﾃﾑ搭載）
- 海外向け12～80t吊り 5機種
  （国内海外向け共にﾀﾀﾞﾉ製造）
- 国内は一般道走行
  北米はﾄﾚｰﾗｰ輸送



写真製品：13年4月新発売

【オールテレーンクレーン】

- 国内では都市開発、高架･橋梁工事向けの大型ｸﾚｰﾝ
  国内総需要の5%
  （欧州総需要の78%）
- 遠距離走行性に加え
  小回り性にも優れる。



- 国内向け60～550t吊り 6機種
  （独TFG製造、ﾀﾀﾞﾉ製造）
- 海外向け40～400t吊り 9機種（独TFG製造）
- 国内一般道走行時には分解搬送が必要
  欧州では分解走行不要

建設用クレーン

【トラッククレーン】

- 走行性に優れたﾄﾗｯｸに架装したｸﾚｰﾝ。国内総需要は数台、主に海外向け
- 遠距離走行性に優れる。
- 国内向け20t吊り2機種（ﾀﾀﾞﾉ製造）
- 海外向け40～80t吊り8機種
  （ﾀﾀﾞﾉ・TFG（独）・北起多田野（中国）製造）

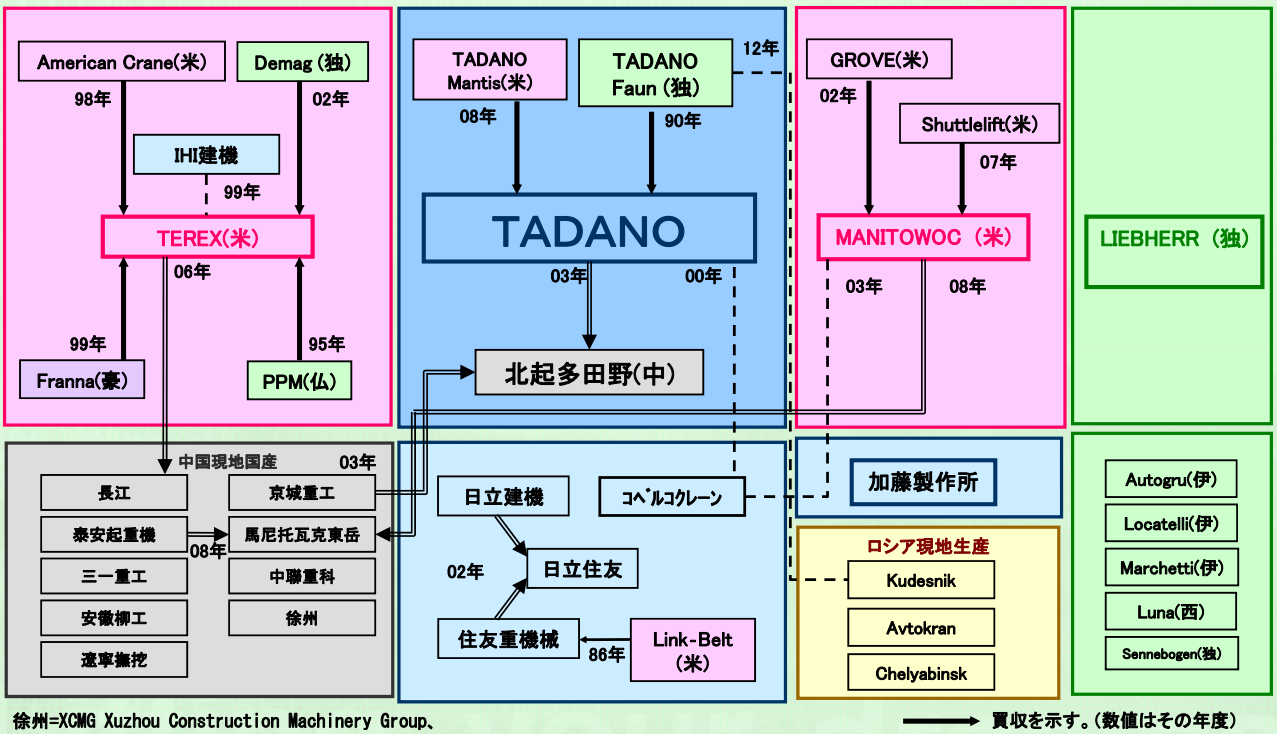
- 北起多田野(中国)から55tﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝの輸出。機種を拡大予定。
- ブラジル合弁工場にて、現地製ﾄﾗｯｸへの架装。



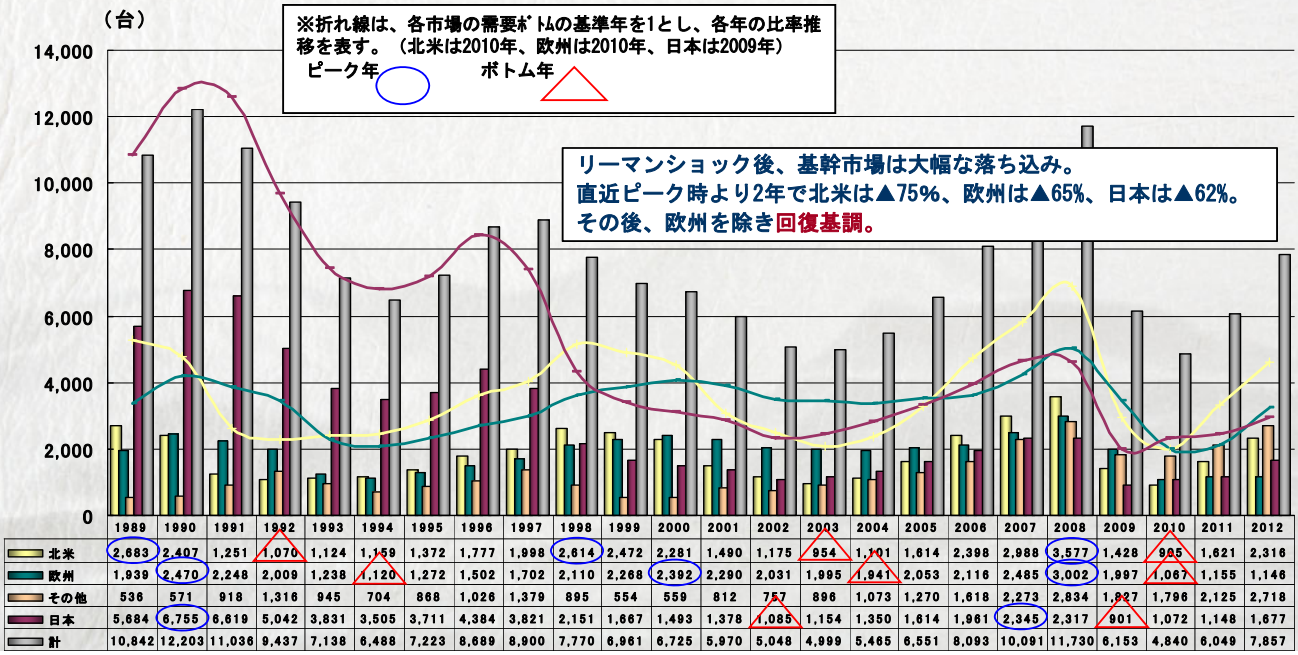
【建設用クレーンの共通事項】

- 監督官庁：国土交通省（自動車の規制）及び厚生労働省（ｸﾚｰﾝの規制）
  排ｶﾞｽ規制、騒音規制の強化、走行規制（ｵｰﾙﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ等大型機種の分解搬送）の取締り強化
- 国内販売先：ｸﾚｰﾝ工事業（ｾﾞﾈｺﾝの一次・二次下請で、ｸﾚｰﾝ免許を有するｵﾍﾟﾚｰﾀｰ付でｸﾚｰﾝを現場派遣）
- 販売特徴：90年代迄は業界慣行で手形による割賦販売が多かったが、現在はﾌｧｲﾅﾝｽﾘｰｽ会社経由へｼﾌﾄ
- 国土交通省直轄工事における排出ガス規制：2012年4月から第2次基準値適合車の使用原則化
  ⇒復興工事への影響を考慮し、規制強化を延期
- 日本向けRC 3.5次排出ガス規制
  原動機出力130kW以上 2013年 4月以降　　130kW未満 2013年11月以降
- 北米向けRC排出ガス規制　①Tier4 Interim 2011年1月以降　②Tier4 2014年1月以降
- 欧州向けAC排出ガス規制　①EuromotoⅢB 2011年1月以降　②EuromotoⅣ 2014年1月以降

クレーン業界図(油圧式ｸﾚｰﾝﾒｰｶｰ・ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝﾒｰｶｰ)



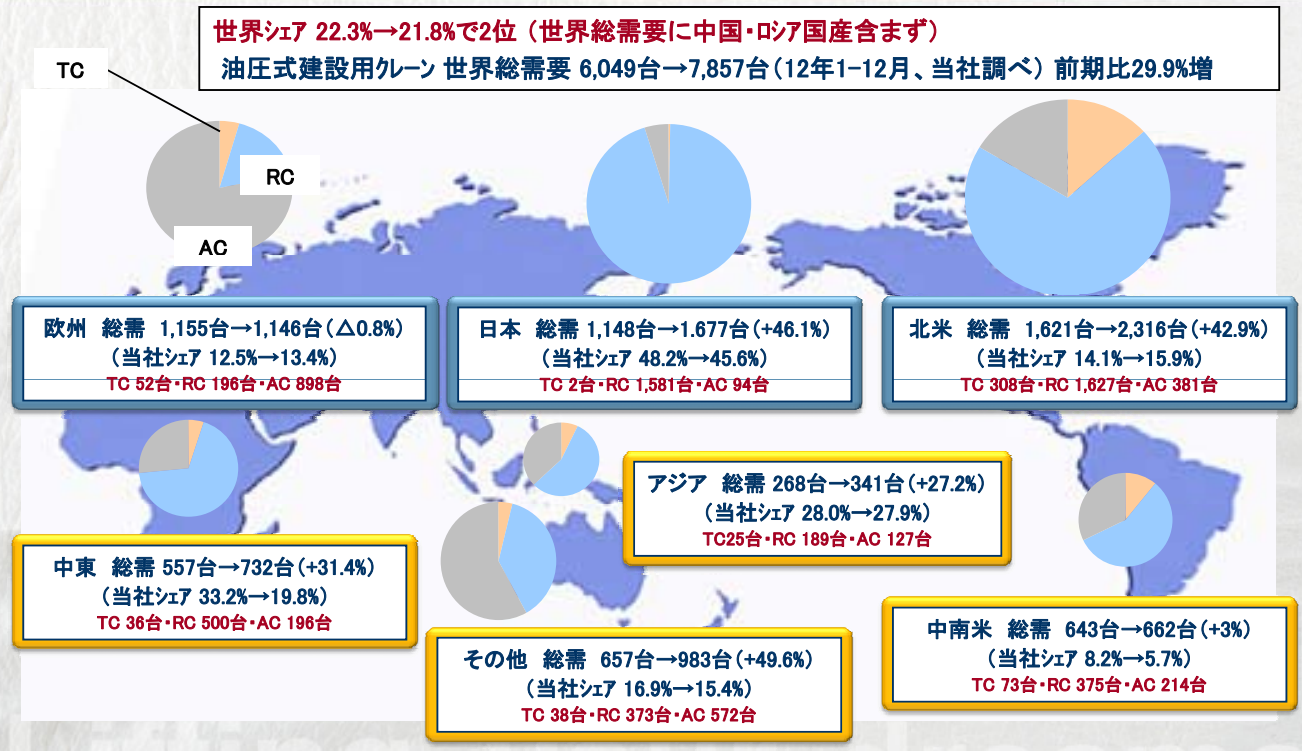
建設用クレーンの世界総需要の推移（12年1-12月暦年ベース）



	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
北米	2,683	2,407	1,251	1,070	1,124	1,159	1,372	1,777	1,998	2,614	2,472	2,281	1,490	1,175	954	1,101	1,614	2,398	2,988	3,577	1,428	995	1,621	2,316
欧州	1,939	2,470	2,248	2,009	1,238	1,120	1,272	1,502	1,702	2,110	2,268	2,392	2,290	2,031	1,995	1,941	2,053	2,116	2,485	3,002	1,997	1,067	1,155	1,146
その他	536	571	918	1,316	945	704	868	1,026	1,379	895	554	559	812	757	896	1,073	1,270	1,618	2,273	2,834	1,827	1,796	2,125	2,718
日本	5,684	6,755	6,619	5,042	3,831	3,505	3,711	4,384	3,821	2,151	1,667	1,493	1,378	1,085	1,154	1,350	1,614	1,961	2,345	2,317	901	1,072	1,148	1,677
計	10,842	12,203	11,036	9,437	7,138	6,488	7,223	8,689	8,900	7,770	6,961	6,725	5,970	5,048	4,999	5,465	6,551	8,093	10,091	11,730	6,153	4,840	6,049	7,857

1. 海外市場の89～91年はSYSTEMATIC及びCIMAの統計データより当社推計。92年以降はCIMA/CEMA/FEMの統計データより当社推計
2. 中国・ロシア国産の建設用ｸﾚｰﾝは上記に含まず。

建設用クレーン　地域別需要機種構成（12年1-12月暦年ベース）



※TCはトラッククレーン、RCはラフテレーンクレーン、ACはオールテレーンクレーンを表す。
数値は、当社推計。その他は、オセアニア、ロシア、アフリカ。 台数・ｼｪｱは、前年同期からの変化を示す。

欧州事業　～ｵｰﾙﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝのフルレンジ化と欧州域外への拡販～



●欧州グループ会社の概要

【 TADANO FAUN GmbH 】
90年に買収、資本金：45百万EUR　当社100%出資
所在地：ﾄﾞｲﾂ国ﾊﾞｲｴﾙﾝ州
事業内容：建設用ｸﾚｰﾝの開発・製造・販売
代表者：社長 ｱﾚｸｻﾝﾀﾞｰ･ｸﾈﾋﾄ、従業員：587人
売上高の推移：
05年：175百万EUR/271台、06年：218百万EUR/331台、
07年：266百万EUR/373台、08年：346百万EUR/502台、
09年：270百万EUR/381台、10年：178百万EUR/213台、
11年：199百万EUR/248台、12年：268百万EUR/294台
＊11年以前は販売会社、製造会社の簡易連結

【 TADANO FAUN Stahlbau GmbH（ﾀﾀﾞﾉﾌｧｳﾝｼｭﾀｰﾙﾊﾞｳ）】
資本金：650千EUR（出資比率　TFG社 80%、ｱﾑﾛﾝ10%、香西鉄工所10%）
設立：08年9月、所在地：ﾄﾞｲﾂ国ﾊﾞｲｴﾙﾝ州TFG社工場内
事業内容：TFG社向け建設用ｸﾚｰﾝ部品(ｼﾞﾌﾞ等)の製造
代表者：社長 ﾗﾙﾌ・ｿﾞﾝﾀｰｸ、従業員：10人



●ｵｰﾙﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝのフルレンジ化の加速

40～400tの9機種をﾗｲﾝﾅｯﾌﾟ
（写真は400t吊ｵｰﾙﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ:12年9月 欧州向け 13年5月 日本向け新発売）



●試験場開設

TFG工場北30kmに超大型ACの試作機等をテストする試験場を12年9月より使用開始。

米州事業　～北米でのシェアアップと中南米への取り組み～

●米州グループ会社の概要



【 TADANO America Holdings, Inc. 】
資本金：51百万USD　当社100%出資
所在地：米国ﾃｷｻｽ州、事業内容：米州持株会社
代表者：社長 柿沼 陽

【 TADANO America Corp. 】
資本金：2.5百万USD　TAHI社100%出資、所在地：TAHIと同じ
事業内容：建設用ｸﾚｰﾝの販売
代表者：社長 柿沼 陽、従業員：52人
売上高の推移：05年 80百万USD、06年 95百万USD、07年 142百万USD、08年145百万USD
09年105百万USD、10年 78百万USD、11年 183百万USD、12年249百万USD



【 TADANO Mantis Corp. 】
08年に買収、資本金：287千USD　TAHI社100%出資
所在地：米国ﾃﾈｼｰ州、事業内容：油圧伸縮ﾌﾞｰﾑ式ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝの製造・販売
代表者：社長 森田 士朗 、従業員：159人
主要製品：伸縮ﾌﾞｰﾑ式ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ（履帯式の足回りを持つｷｬﾘﾔに油圧伸縮するﾌﾞｰﾑを持つｸﾚｰﾝを組み合わせた製品）。主に土木・建設工事に使われ、不整地や泥濘地、ﾄﾝﾈﾙ内での作業などに適する。
売上高の推移：08年 41百万USD、09年 33百万USD、10年 16百万USD
11年 34百万USD、12年 39百万USD



【 TADANO BRASIL EQUIPAMENTOS DE ELEVACAO LTDA. 】
資本金：15百万R$　当社68.5%出資　当社販売代理店社長ｶﾝﾎﾟｽ氏31.5%出資
所在地：ﾌﾞﾗｼﾞﾙ共和国ｻﾝﾊﾟｳﾛ州、事業内容：建設用ｸﾚｰﾝ等の製造・販売・サービス
代表者：社長 永井　啓介、従業員：27人
11年4月設立、11月工場竣工、12年5月稼働。

中国事業　～コストダウン・品質向上の実現と中国からの輸出～

●油圧式クレーンの中国市場の状況

12年暦年の油圧式ｸﾚｰﾝ総需要は22,000台（▲37%）、中国国産のﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝがほとんど（当社調べ）
08年21,500台（+10%）→09年27,000台（+26%）→10年35,000台（+30%）　→11年35,000台（±0%）
なお、吊り上げ能力25t以下の小振りのｸﾚｰﾝが、12年総需要の83%と大半を占める。個人ﾕｰｻﾞｰ増加と推定。

●中国グループ会社の概要



【北起多田野（北京）起重機有限公司】
資本金：30百万USD 当社50%、北京京城重工機械有限責任公司50%出資（設立03年3月）
所在地：北京市順義区林河（北京市街から約25km北西）　工場3.6万㎡、工場用地12万㎡
事業内容：ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ等の製造販売、8～100ｔ吊りTC 8機種
総経理　内田 秀三（当社）、従業員　326人
09年 売上212台 ｼｪｱ0.8% 売上高2.2億元、10年 売上254台 ｼｪｱ0.7% 売上高2.5億元
11年 売上230台 ｼｪｱ0.6% 売上高3.1億元、12年 売上194台 ｼｪｱ0.8% 売上高2.8億元
◆06年1月に当社 追加出資1千万US$を実施。
・ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ製造を自動車産業該当との当局見解を踏まえ、上限の50%まで追加出資
※現時点では、連結対象とはならず、ｸﾞﾙｰﾌﾟ業績に与える影響はほとんどない。



【京城多田野（北京）液圧機器有限公司】の概要
資本金4百万USD：当社65%、三村鉄工5%、村上製作所5%、京城重工25%（設立07年9月）
所在地：北京市通州区（北京市街から約20km東）、工場0.8万㎡、工場用地1.3万㎡
総経理 村上　照幸（当社）、従業員70人
事業内容：建機用油圧部品（ﾊﾞﾙﾌﾞ、ﾛｰﾀﾘｰｼﾞｮｲﾝﾄ、小型ｼﾘﾝﾀﾞ、配管等）の製造販売
（香川県の協力工場の出資や協力を得る合弁は初。）



【金天利多田野（河北）金属加工有限公司】の概要
資本金5.5百万USD：当社56%、アムロン5%、カワニシ5%、河北金天利34%（設立10年1月）
所在地：河北省涿州市開発区（北京市街から約60km南西）、工場1万㎡、工場用地3.3万㎡
総経理 村上 照幸（当社）、従業員88人
事業内容：建機用金属加工部品（ﾌﾞｰﾑ・ｼﾞﾌﾞ・ｱｳﾄﾘｶﾞ等）の製造販売。

2003年以降の海外展開　～11社設立・買収、5拠点開設 ～



海外展開の加速　～アジアへの展開 ～

【 TADANO INDIA PVT.LTD. 】

資本金：90百万INR　当社グループ100%出資
設立：12年3月
所在地：ｲﾝﾄﾞ共和国ｶﾙﾅｰﾀｶ州ﾊﾞﾝｶﾞﾛｰﾙ市
事業内容：建設用ｸﾚｰﾝ等の販売・ｻｰﾋﾞｽ
代表者：社長 西田 千博

●インド市場のニーズにきめ細かく対応し、ユーザーに密着した販売・サービスの強化を目指す。
将来の現地生産を踏まえ、事業化可能性の調査も合わせて行う。



【 TADANO (Thailand) Co.,Ltd. 】

資本金：310百万THB　当社100%出資
設立：12年4月
所在地：ﾀｲ国ﾗﾖｰﾝ県ﾍﾏﾗｰﾄ・ｲｰｽﾀﾝｼｰﾎﾞｰﾄﾞ工業団地内
事業内容：ｶｰｺﾞｸﾚｰﾝの製造・販売
生産能力:1,000台/年（13年操業開始時）
代表者：社長 倉前 保公
事業計画：
　18年 売上高1,150百万THB 生産台数 2,000台

●建設用クレーン以外の初の海外生産拠点を設立。
本製造子会社設立により、海外展開をさらに加速させるとともに、収益性の向上を目指す。



6月操業開始予定のTADANO(Thailand)工場

lifting your dreams

車両搭載型クレーン

【カーゴクレーン】国内ｼｪｱ 46.3%→47.4%

国内総需要 13,390台（12年度、当社調べ） 前期比29.6%増

⇒復興関連需要やｴｺｶｰ補助金、排出ガス規制特需の代替需要等によるﾄﾗｯｸ需要の増加もあり、売上高は、152億1千3百万円（前期比 133.8%）

- 通常のﾄﾗｯｸに架装した小型ｸﾚｰﾝ、貨物の積載･運搬･設置作業等が1台で可
- 物流用途、造園業や建設業用途、ﾄﾗｯｸﾃﾞｨｰﾗｰの間接販売
- 小型･中型･大型ﾄﾗｯｸ架装用に多数の機種 0.49t～4.9t吊り

～監督官庁～
- 主に厚生労働省（ｸﾚｰﾝの規制）

～主な販売先と特徴～
- 国内ﾄﾗｯｸﾃﾞｨｰﾗｰ
- ﾄﾗｯｸ需要に左右される傾向



（写真製品：積載型ｸﾚｰﾝ初の「ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟ」機能をｵﾌﾟｼｮﾝ設定

（海外展開）

- ｶｰｺﾞｸﾚｰﾝの戦略市場向け輸出に注力。ｸﾚｰﾝ部を輸出し、現地にてﾄﾗｯｸに架装。
  11年度売上：12億円 → 12年度売上：12.3億円
- 12年4月にﾀｲに製造子会社を設立し、海外展開を加速。

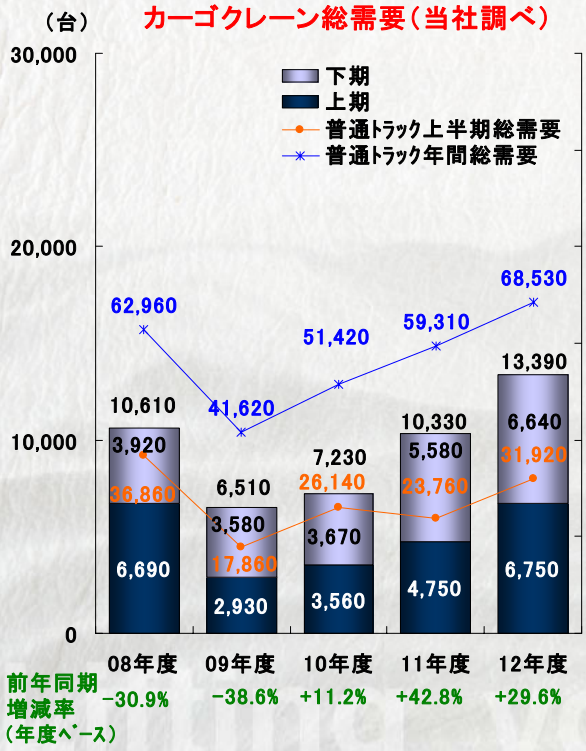


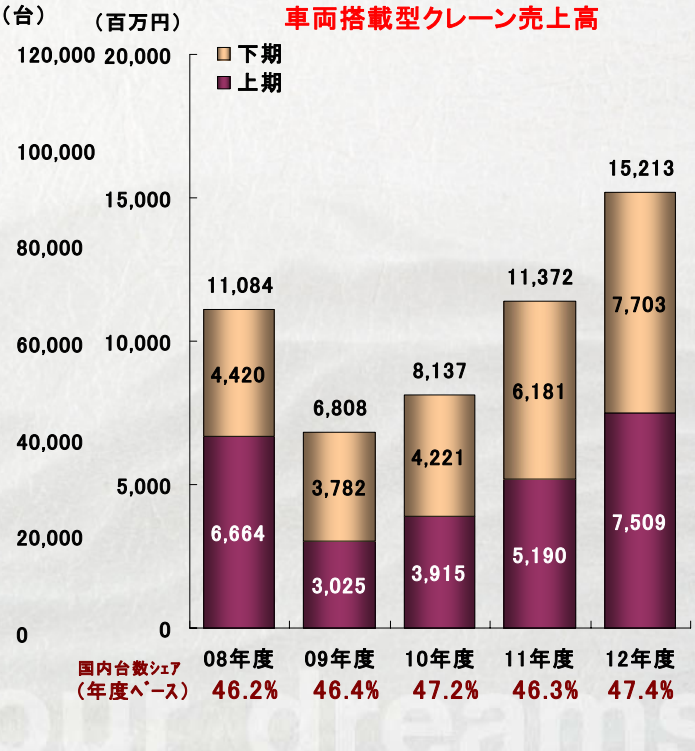
（写真製品：輸出ｶｰｺﾞｸﾚｰﾝZR560）



（写真製品：11年4月発売
業界初のﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ仕様ｽﾗｲﾄﾞｷｬﾘﾔ）

車両搭載型クレーン





高所作業車

国内ｼｪｱ 38.2%→38.3%

ﾄﾗｯｸ搭載ﾀｲﾌﾟ国内総需要 3,266台（12年度、当社調べ） 前期比13.0%増

⇒設備投資意欲の旺盛なﾚﾝﾀﾙ業界向け販売に注力した結果、
売上高は、128億5千3百万円（前期比 109.0%）

・電気･通信工事用
（通信用6機種、電工用3機種）
・看板や内外装等の一般工事用
（一般用12機種､ﾎｲｰﾙ3機種）
・足回りはﾄﾗｯｸだけでなく、
ﾎｲｰﾙもあり

・高度な制御技術を装備した
独自製品「スーパーデッキ」5機種
・高架道路や橋梁点検のための
「高架橋梁点検車」3機種



AT-120SRM<ﾓﾊﾞｲﾙﾛｰﾗ>

～監督官庁～
・主に厚生労働省（高所作業車の規制）
～主な販売先と特徴～
・電力電工､通信､ﾚﾝﾀﾙ､一般、造船、国土交通省。
・当社は､高付加価値のｽｰﾊﾟｰﾃﾞｯｷ及び高架橋梁点検車の販売に注力



トンネル内の工事・点検作業等の連続作業において、作業効率を飛躍的に向上させるローラージャッキ仕様。

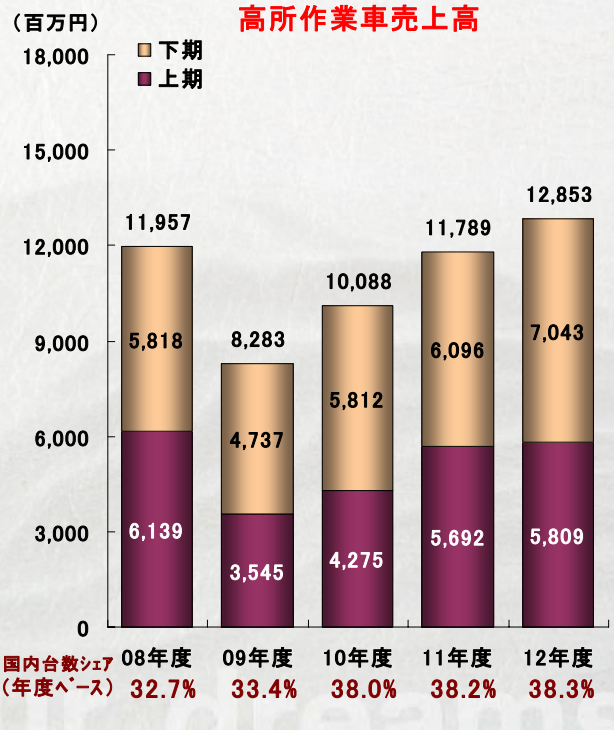
高所作業車

国内高所作業車総需要（当社調べ）



前年同期増減率（年度ﾍﾞｰｽ）	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度
	−45.8%	−34.7%	+19.8%	+24.7%	+13.0%

高所作業車売上高



国内台数ｼｪｱ（年度ﾍﾞｰｽ）	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度
	32.7%	33.4%	38.0%	38.2%	38.3%

その他

⇒部品、修理、中古車等のその他売上高は、262億2千2百万円（前期比 106.6%）

【中古クレーン】

・国内市場は震災復興工事や減災・防災工事により稼働が好調なことから品不足。

・当期は、国内は減少、海外は増加。

【部品修理】

・当社は、修理用の部品売上を計上
（修理は、主に国内指定ｻｰﾋﾞｽ工場や海外代理店が担当し、ｻｰﾋﾞｽ工場や海外代理店で売上計上）

・当期は、国内海外ともに増加。

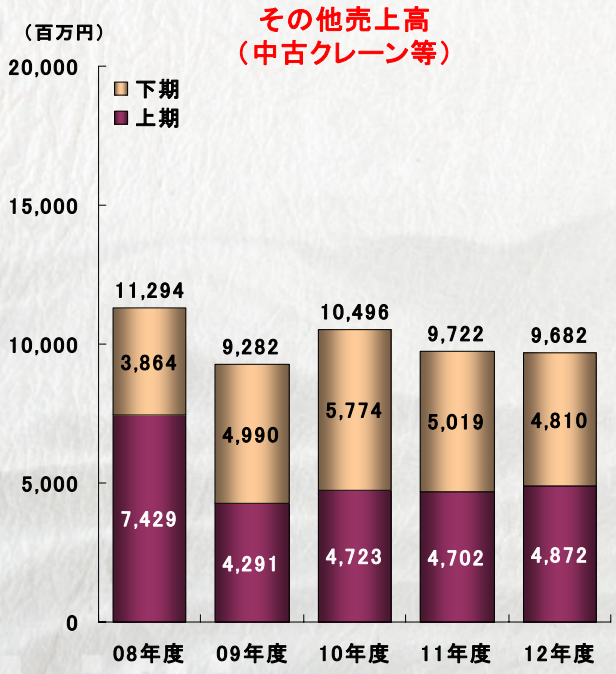


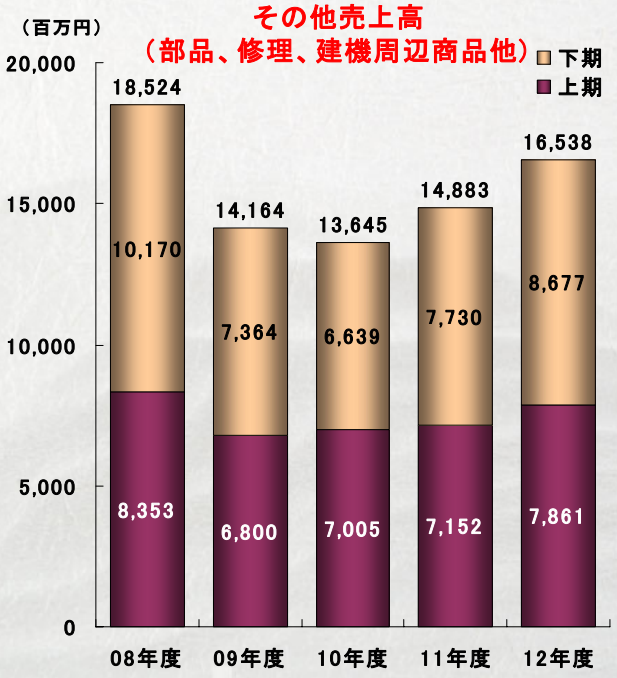
オールテレーンクレーンブーム着脱作業例 CL-500

【オールテレーンクレーン着脱リフター】

・公道走行に際して、法令に基づき分解・搬送を必要とする国内オールテレーンクレーンの着脱用リフター

その他





13年度業績予想

（単位：百万円）

	12年度		13年度予想		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	134,836	100.0%	155,000	100.0%	＋15.0%
営業利益	10,925	8.1%	15,500	10.0%	＋41.9%
経常利益	11,448	8.5%	15,500	10.0%	＋35.4%
当期純利益	7,341	5.4%	9,500	6.1%	＋29.4%

1株当たり配当金	中間	5.00円	中間	8.00円
	期末	7.00円	期末	8.00円
	年間	12.00円	年間	16.00円

	12年度	13年度計画
設備投資額	2,925百万円	4,000百万円
減価償却費	2,167百万円	2,500百万円
為替レート(US$)	79.82円	95.00円
為替レート(EUR)	102.63円	125.00円

※設備投資額にはﾘｰｽ資産分を含んでおります。

【13年度の経営方針】

①ｺｱﾊﾞﾘｭｰの追求「安全・品質・効率」
②日本は「質」海外は「量」
③収益力の強化
④中期経営計画（11-13）の仕上げ

【中期経営計画（11-13）7つの戦略】

●事業戦略
①戦略市場の攻略
②環境対応製品の開発
③超大型LE製品の開発

●競争力強化
①コスト競争力の強化
②品質とサービスの強化

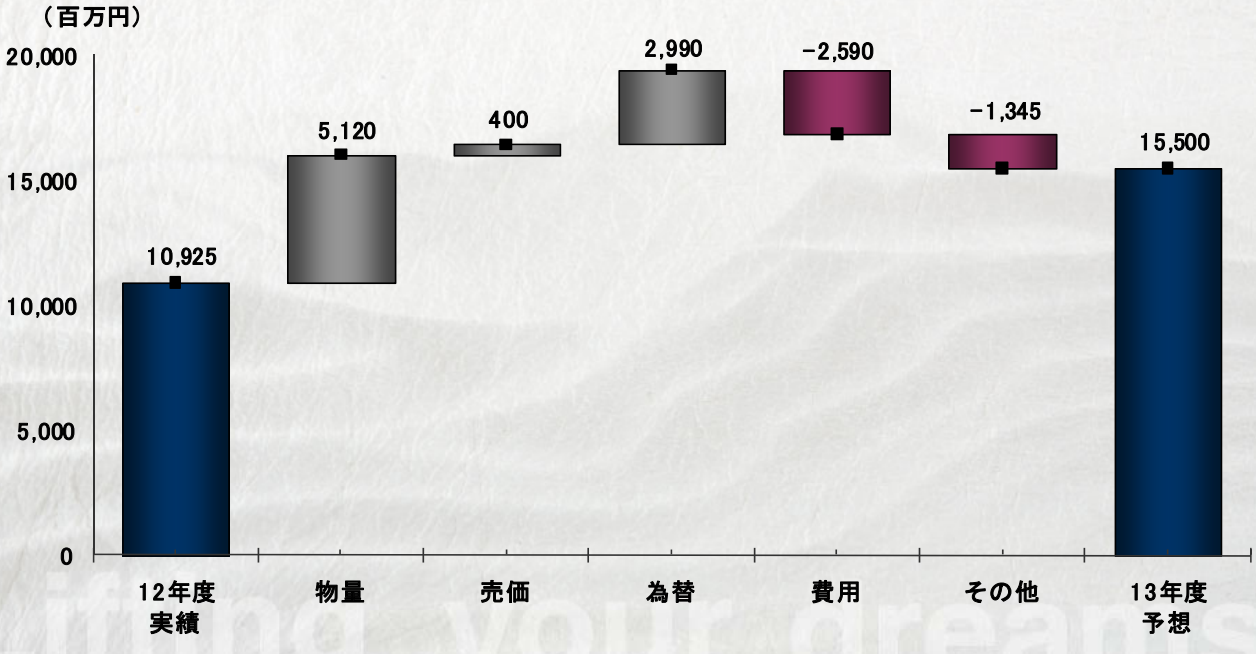
●基盤強化
①ものづくり力の強化
②組織と人財のグローバル化

⇒中期経営計画（11-13）の最終年度として収益力の強化と海外での一層の拡販に取組む。

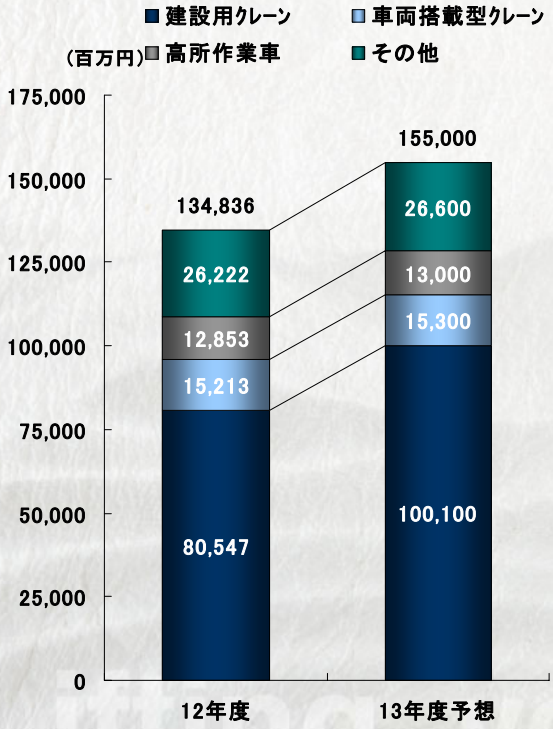
■13年度通期海外売上高比率 53%

13年度業績予想（営業利益の増減要因）

費用の増加や構成の変化等の影響があるも、為替影響や売上増に加え、販売価格の適正化を継続し、営業利益は45億円の増加。



13年度業績予想(製品別売上高)



(単位:百万円)

	12年度		13年度予想		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
建設用クレーン	80,547	59.7%	100,100	64.6%	19,553	24.3%
車両搭載型クレーン	15,213	11.3%	15,300	9.9%	87	0.6%
高所作業車	12,853	9.5%	13,000	8.4%	147	1.1%
その他	26,222	19.5%	26,600	17.1%	378	1.4%
合計	134,836	100%	155,000	100%	20,164	15.0%

【製品別ポイント】

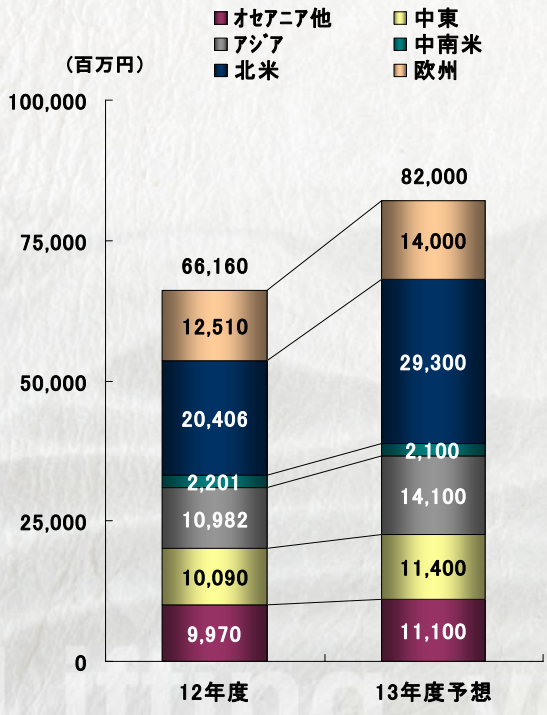
◆建設用ｸﾚｰﾝ　＋195億円
(国内) 老朽化による買い替えで、売上増 37億円
(海外) 北米を中心に需要回復、売上増 157億円

◆車両搭載型ｸﾚｰﾝ　＋0.8億円
国内需要は横ばい

◆高所作業車　＋1.4億円
国内需要は横ばい

◆その他　＋3.7億円

13年度業績予想(仕向地別売上高)



(単位:百万円)

	12年度		13年度予想		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
欧州	12,510	9.3%	14,000	9.0%	1,490	11.9%
北米	20,406	15.1%	29,300	18.9%	8,894	43.6%
中南米	2,201	1.6%	2,100	1.4%	-101	-4.6%
アジア	10,982	8.1%	14,100	9.1%	3,118	28.4%
中東	10,090	7.5%	11,400	7.4%	1,310	13.0%
オセアニア他	9,970	7.4%	11,100	7.2%	1,130	11.3%
小計(海外計)	66,160	49.1%	82,000	53.0%	15,840	23.9%
日本	68,675	50.9%	73,000	47.0%	4,325	6.3%

※左のグラフには、日本を含んでおりません。

TOPICS

◆「世界3大建機展 Bauma 2013」出展

2013年4月15日～21日(7日間)、独ﾐｭﾝﾍﾝにて開催。

前回のBauma2010では、53ヵ国から3,256社参加、来場者数は世界200ヶ国から42万人以上。

AC 6機種 ATF400G-6:400t吊り、ATF220G-5:220t吊り、ATF180G-5:180t吊り
ATF130G-5:130t吊り、ATF90G-4:90t吊り、 ATF70G-4:70t吊り

TC 1機種 HK65:65t吊り、RC 1機種 GR-800EX:80t吊り、TBC 1機種 GTC-300EX:30t吊り

TM 2機種 TM-ZR825：8.2t吊り、TM-ZE503GMH:4t吊り





TADANO